

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1965
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.58, No.8 (1965. 8)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19650801--001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19650801--001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会



# 三田學會雜誌

1965年 8月号

## 論 説

- Neogemeinfreien-Theorie について……………宇尾野 久 1
- エルベ以東・上ラウズイツ地方の農村市場町(二)…寺 尾 誠 21
- 中立的技術進歩と経済成長……………高橋 房二 56  
—C. E. S. 生産函数を中心として—

## 書 評

- 儀我社一郎著『中国の社会主義企業』……………平野 絢子 84  
野崎幸雄著『現代中国の経営管理』
- 日本経済調査協議会  
『南北問題と日本経済』……………深海 博明 88  
—国連貿易開発会議を中心として—

## 新刊紹介

58 卷 8 号

# MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 58, No. 7

July, 1965

## CONTENTS

### Articles

- Analysis of the Reproduction Structure  
of Japanese Capitalism  
—An Approach from "Inter-industrial  
Table of 1960"—……………*K. Imura* 1  
……………*I. Kitahara*
- A Process of Forming the Concepts  
of Maximizing Group Welfare (2)  
—Some Characters in Theoretical  
Structure of Paretian Concept—……………*T. Matsuura* 61

### Book Reviews

- S. Sugihara; The Formation of Marxian  
Economics (1964)……………*H. Iida* 77
- Robert M. Solow; Capital Theory and the Rate  
of Return……………*H. Tanaka* 81

Published for  
**KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI**  
(The Keio Economic Society)  
Editorial Communications to be sent to  
the Editor, Keio Gijuku Keizai Gakkai,  
Keio University,  
Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.  
Price 120 yen

新刊紹介

- 木下和夫編『財政政策入門』……………古田 精司 97  
大野信三著『現代経済学史』……………松 浦 保 98  
宮川 澄一 著 尾 光 司 著『資本交流と国際金融』……………原 豊 99

Neogemeinfreien-Theorie について

宇 尾 野 久

社会経済史の研究では、新説をおいかけることが必ずしも研究を革新することにならない場合が屢々ある。

Theodor Mayer や Heinrich Dannenhauer によって Führerstaat の形で提唱された初期フランク社会のいわゆる指導権 (Führertum) の問題は、市民的立憲国家や官僚制国家 (Die bürgerlichen konstitutionellen Ordnungs- und Beamtensstaaten) の理念から発したものをゲルマン古代や初期中世に敷衍したものであり、必ずしも資料的に正鵠を得たものではないと云った批判が行なわれている。

スイスの中世国制史研究者の Fritz Wernli が、A. I. Neussyehin, Die Entstehung der abhängigen Bauernschaft, 1961. とほぼ同じ頃に、その著 Die mittelalterliche Bauernfreiheit, 1959. Die Gemeinfreien des Frühmittelalters, 1960. で、右のような批判を行なっている。

コンスタンツ学派のいわゆる Königsfreiheit-Theorie が、ひろく学界に伝えられた頃、二つの受取り方があったと思われる。つまり Königsfreiheit の観点に徹底しようとした人々と、この学説を古典的な従来の研究体系の中でどれほどのウェイトを与え、またどのようにその体系の中へ自然にありこんでゆくかと云ったことにある。